

## 【液冷と液浸、ハイパースケールとユニットモデルの分岐点】

# AI データセンター設計の リスクとビジネスモデル変革

～短期、中期の市場展望～

— 講師 —

桑津調査房 代表

立命館大学 大学院経営研究科 客員教授 桑津 浩太郎 氏

日時 2026年8月18日(火) 午前10時～12時  
受講方法 会場受講／ライブ配信／アーカイブ配信(2週間、何度でもご視聴可)  
会場 SSK セミナールーム 東京都港区西新橋2-6-2 ザイマックス西新橋ビル4F

## [重点講義内容]

従来のハイパースケールは、床面積の拡大で空調効率と収益性を高める「恐竜」に似たビジネスモデルと言える。しかし、現在、GPU の発熱増や装置コスト高騰、エネルギー調達などが大規模投資の不透明感を強めており、ハイパースケールと同じ感覚で、AI データセンターの大規模化が進むことへのリスクが懸念されている。

特に、冷却技術において、注目される水冷方式では 5～10 年以内の GPU 要件に耐えられず、液浸方式が有力視されるが、これにともない建築全般、インフラの見直しが必要となる。結果として短期の需要増対応と中期の構造設計見直しのバランスをとるアプローチが必要となり、熱・エネルギー・重量を制御できるコンテナ等の小規模ユニット群運用が当面の現実解として浮上している。

1. AI データセンター市場の現状
2. AI データセンターのビジネスモデルとリスク
  - ・冷却
  - ・水
  - ・社会受容性
  - ・投資
  - ・規制
3. ユニット型データセンターモデルの評価
  - ・見劣りする収益構造
  - ・液浸冷却との親和性
  - ・大規模 AI データセンターとの棲み分け
4. 質疑応答／名刺交換

## PROFILE 桑津 浩太郎(くわづ こうたろう)氏

2024年6月 株式会社野村総合研究所 退職 研究理事。

2006年から、コンサルティング事業本部情報通信コンサルティング部部長。

情報通信分野での調査、コンサルティングに従事。

現在、桑津調査房 代表、立命館大学客員教授、総務省情報通信審議会委員等。

